

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和7年10月30日）

1 主な報告等

(1) 令和8年度概算要求の概要について

委員から、限られた予算の中で、サイバー犯罪や匿名・流動型犯罪グループ対策等新たな事案への対処を求められる中に沖縄特有の事象にも対応しなければならないのは大変なことと思う。防犯機器等ハード面の整備に関しては各市町村も取り組んでいることから、効果的に連携するとよい。また、社会貢献活動の一環として防犯活動に理解を示している団体等もあるので、協力依頼を相談してみるのもよい。被服、装備、住居等の警察活動を支える基盤を充実させることは、大変重要なことであることから、全国的な予算規模との比較を含めて関係各所に丁寧に説明し、警察官が働きやすい環境の整備に向けてしっかり取り組んでほしい旨の発言があった。

(2) 全国地域安全運動の実施について

委員から、地域安全運動出発式で、県内のプロレス団体が行ったニセ警察官を退治して詐欺被害防止を呼びかけるアトラクションがとても興味深かった。また、大学生が作成した防犯動画もインパクトがありよくできている。先日、スーパーで買い物をしていたところ、特殊詐欺へ注意を呼びかける店内アナウンスも流れていた。このように防犯活動は誰でも行うことができるので、多くの人に加わってもらうことが大切だ。防犯イベントに関わった企業の職員から、「私たちが販売したものが犯罪に悪用されることを初めて知った。」という感想を聞いたこともある。一緒に携わることにより防犯意識を高めることにつながるので、今後も地域住民や企業に参加を求めて、活動の輪を広げてほしい旨の発言があった。

(3) 沖縄市松本において発生した強盗致傷事件の検挙について

委員から、警察署と警察本部の迅速な対応と連携が素晴らしいと感じた。各種資機材や最新の捜査支援システム等がスピード解決に果たした役割も大きい、刑事の粘り強い聞き込みや知識経験があったからこそ、有効に活用できたと思う。凶悪な犯罪が発生しても、早く解決すれば県民の安心感につながる、これからも最新の技術と基礎的な捜査活動を融合させて早期検挙に努めてほしい旨の発言があった。

(4) その他

警察本部から、来年度の予算概算要求にあたり、県警はトクリュウ対策、サイバー犯罪対策、運転免許行政、労働環境の整備等への取組を強化する予定である。知事部局に丁寧に説明しながら、治安対策に間隙が生じないように必要な予算要求を行っていききたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 沖縄県議会（11月定例会）の提出議案について
- ・ 監察関係報告
- ・ 電子申請を行わせる手続き等の告示について

(2) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について